

保育者と子どもがつくる表現についての一考察

原野 明子

(県立新潟女子短期大学)

1 はじめに

保育者と子どもが生活発表会という行事に向けて表現しあっていく中で、どのような経験をしたのかを事例を通して考えてみたい。ここで取り上げる事例は、公立幼稚園の5歳児(27名)の10日間のものである。この園での生活発表会は、それぞれ普段の生活の積み重ねを保護者に見てもらうことを目的としている。したがって、内容も子どもの遊びからでき、遊びこんだものを保護者に見てもらう。保育者と子どもが相互に作りあっていくことを大切に考え、日々の生活が営まれているため、観察対象としてとりあげ、考察することとした。ここでは子どもたちは、自分たちの作ったお話を大きな紙芝居にし、上演した。

2 方法

対象：新潟市内公立幼稚園年長組1クラス(男児14名、女児13名)

期間：11月30日(土)から12月9日(月)

観察方法：上記の期間筆者がほぼ毎日子どもの様子をビデオに録画した。ビデオ録画のできなかった日については、担任の記録をいただいた。このクラスには年度当初から入ってはビデオを撮ったり、子どもと関わったりしていたため、ビデオが子どもの生活を抑制していないと考えられる。

事例のまとめ方：ビデオから転記した記録と担任による記録から事例をまとめた。ビデオによる記録か担任の記録かは、各事例の初めに記した。事例から考察する視点としては、クラスの中にこの発表会の遊びがどのように広がるのかをみる一つの指標として子どもたちが他の子の何に注目しているのかを探った。さらに、以前の何らかの経験と今回の経験をどのようにつなげているのかが明確にわかる場面(子どもや保育者の言語化等により)を抽出して、子どもの生活における経験について考察した。

3 事例と考察

(1)身体の動きと注目 子どもたちが他の子のしていることに注目したり、そばに集まったりする場面には何らかの特徴があるのか、当該場面を事例の中から抽出した(事例1-1~1-6)。事例1-1、1-5は、クラスの全員が集まっているところでの様子である。子どもたちは自分の関係する場面以外ではなかなか集中できず、ざわざわとしていたが、切り抜かれたくじらが動く場面になるとそこに注目していた。事例1-2、1-3、1-4、1-6は、好きな遊びをしている時に、紙芝居

の自分の場面に関係したことをしている子どもたちの様子である。これらの事例でも、普段と違った動きに周囲の子どもたちが注目し、集まってきた。全体的にみると、動きに声や音が伴っていたため、他のことをしていた子どもたちにも注目する手がかりとなったと考えられるが、普段見慣れない動きがあるために、注目のみならず、近づいてくる(参加する)ことになったのではないだろうか。

(2)経験の再構築 新しくものをつくり出すときに手がかりとなるのが、過去の経験であろう。ここでは、子どもや保育者が言葉の中で、あの時のあの経験ということがわかることを表明している場面を事例として抽出した。事例2-1、2-2は、くじらの潮吹きの仕掛けをどうするかを考えあっているときにでた子どもたちの考えである。事例2-1では、子どものいった「クラッカー」という言葉を、保育者は、1カ月前のプレイデイ(運動会)でこのクラスの子どもたちが行ったほしぐみオリンピックでみんなが楽しみにしていたクラッカーと結びつけた。事例2-2では、かずやが春に風で遊んだ経験を、事例2-3では、1学期の先生としんやとの歌のやりとりから始まった経験を、事例3-4ではおかあさんたちが上演してくれた3匹のやぎのがらがらどんで、こわいtrolが登場するときに、同じ様なたいこが鳴っていたことを思いだし、それぞれの場での問題解決に利用している。これらの経験の資源も、言葉や文字というより、クラッカーの動きや風の中でのポリエチレンテープの動き、歌や音である。

4 まとめ

幼児が身体的動きの中で、あるいは身体的動きを手がかりとして、周囲の事象に注目したり、認識したりしていることが、以上の事例をとおしてうかがえる。もちろん、これらが面白い経験、腑に落ちる経験、奇異な経験だからそうになっていると考えられる。他児のこのような経験を目の当たりにすることで、興味を持ったり、(わかりやすく、面白そうなので)自分もやってみたいと思ったりするのかもしれない。

また、経験を再構築するに際しても、幼児においては、過去に経験した動きや音や感覚を手がかりにおこなっているようであった。過去に体をとおして腑に落ちる経験をした子どもはその経験をまた思いだし、次の問題解決の手がかりとするようである。具体的経験をまた異なる具体的経験におきかえることから抽象化が行われるのかも知れない。

事例1-1**11月30日(土) <ビデオより>**

全員で集まり、とおしてストーリーの確認をする。くろくじらのあとで、水色くじらがでてくる。水色くじらは、ちことなみがつくる。柿を食べるために、口の部分を深く切り込んでいる。ちこ・なみ 何かいこうがみんなに聞こえない

T あかね、ちよつと声がちいさいからね先生がかわりにいうとね、くじらが柿をたべようとしてました(柿はまだできていない)。お口みてごらん(はじめてみんなに紹介、まだ舌はない)。ほら

ちこ、なみ あむあむあむ(くじらの口を手で上下に動かしながら)

今までおしゃべりをしてた子どもたちも一斉に前をみる。

T あむあむあむあむってなるんだよね。

子どもたち のりだしてみる

ちこ たべちゃったんだ

T って食べちゃったの。

事例1-2**12月2日(月) <担任の記録より>**

ちこが、くじらが柿を「あむっ」と食べられるように、柿に棒をつけてという。あれこれ棒をだして試したりするうちに、ゆらゆらと柿が浮かんでいるのをくじらがぱくりと食べるというイメージがでてきた。それを受けて、柿をひもでつるすことも試してみる。ちこ、なみ、ゆきは、それがいいと喜ぶ。これができたことで、くじらとのやりとりが面白くなり、交替で持っては遊びを繰り返して行く。あやこ、はるならも加わって、貸してもらって遊ぶ。

事例1-3**12月5日(木) <ビデオより>**

くじらの潮吹きを練習をけいじ、しんや、かずや、保育者でしている。けいじとしんやがくじらを持ち、かずやが柿を持つ。3人ともうちわを手

に持っている。
T じゃ、先生お客さんね(と、くじらが正面から見える位置に行く)。かっこいいわ、それ

その声を聞き、他の子たちも注目

T あれ、柿を食べたらむずむずするよ。

しんや そうだ

かずや(加わり) 潮と一緒に(けいじも加わり)吹き上げよう

T けいじちゃん、はやくじゅんぴ。いち、にの…

3人ポリエチレンテープを下からうちわで扇ぐ

T おー、きょうはよくあがる。すごーい。

部屋のみんなも注目

くじらの口に柿を持っていき

しんや、けいじ、T あむあむあむ

T、しんや、けいじ 柿を食べた後に背中がむずむずするよ。

しんや そうだ、潮と一緒に吹き上げよう。

T (けいじに)うちわだよ、うちわ

しんや、けいじ、かずや それー

T どう?

かずや(観客側からみている) うちわがでて

るんだけど

かずやがくじらによっていくと、ひかるやあやこたちもちかづいていく

事例1-4**12月5日(木) <ビデオより>**

あきとはかめめになるために、時折れおに教えて貰い羽をつくった。羽に色を塗り終わったので、保育者が手強い、手に羽をつけて広げてみる。なみ、しょうた、かほ達がよってきてみる。

しょうた、ともまさも、れおに作り方を教えてもらいながら、かめめの羽を作る。羽が出来上がったならそれをつけて遊ぶ。保育者はピアノをひいて、それに合わせる。それを見ていたしずか、ちこが鉄琴やトライアングルを持ってきて、あわ

せて鳴らす。かめめのでてくる場面のせりふを保育者が言いながら飛ぶ。

事例1-5**12月9日(月) <ビデオより>**

遊戯室で全体をとおしてみる。この日から、観客と対面するように、皆が紙芝居の横に座り、話をする人が紙芝居の真横にでてくるというようにした。絵が見えないので、人の話の時によりどころがなくなかなか話がきけない。

くじらが海に突然でてくるより、横の方から泳ぎながらでてきた方がよいのではないかというT先生の話を子どもたちにしてみる。くじらの子どもたちはくじらを持って上下に動かし、チャップンチャップンと声を出しながら遊戯室の左から右に動いていき、紙芝居の後ろにまわる。「みんなもチャップンチャップンいってみたら」と担任がいうと、子どもたちは「チャップンチャップン」声をあわせていう。くじらの場面にみな注目し、盛り上がった。

事例1-6**12月9日(月) <ビデオより>**

T ねえ、先生はいま思ったんだけど、たべられてたまるもんかってところ、かきが「たべられてたまるもんか〜(体を動かし、声の調子をかえて)」っていうんだから…

りえ (Tの話きながら、大きな声で) 食べられてたまるもんかー。

T そのことろって3人でそろっていつたらどう?

3人 (それぞれに体に力をこめて) 食べられてたまるもんかー

T 3人でやれば強くなると思うよ。

りえ たべられてたまるもんかー

T (驚いた様子)

れおか たべられてたまるもんかー(ゆっく

り)

りえ もうちよつと…

ちえこ たべられてたまるもんか(前屈して力をこめて)

りえ たべられてたまるもんか

T じゃ、わかった。(りえをさして)ひとりが「たべられてたまるもんか」、(ちえこをさして)「たべられてたまるもんか」、(れおかをさして)「たべられてたまるもんか」

りえ、ちえこ たべられてたまるもんかー

T じゃ、もういっかいもういっかい。

3人 ポチャーン!

T いいかも。ポチャーンをそろっていうといいねー。

と、いっているそばで、ポチャーンの時りえがとびあがり、着地のときにポチャーンという。ちえこもまねをする。りえ、ちえこ何回もする。

T いいねー。とびあがっていい?じゃ、もういっかい。

りえ よーい、スタート

3人 ぼちゃーん(楽器も)

りえ いっせーのーでー

3人 ぼちゃーん(楽器も)

みひろ (れおかのトライアングルのたたきかたをみていて) 強くたたいちゃダメだよ。

T みひろを呼び、人のことばかりいわなくていいと言う。

りえ じゃ、これにする?(とタンバリンをれおかに渡す)

りえ いっせーのーでー

3人 ぼちゃーん(楽器も)

りえ これでいいですか(とTのところに行く)

T どれどれ

りえ いっせーのーでー

3人 ぼちゃーん(しずか、れおも輪に入っている)

事例2-1**11月30日(土) <ビデオより>**

T かずやちゃんはどういったしかけにした

い?

かずや なんかさあ、白い玉さあ、いっばいだし

たい。
T (しんやが白い玉(発泡スチロールでできた直径2〜3ミリの玉)をもっていたので) ちよつと貸して

しんや 気づかずに落ちている玉を拾っている

T しんやさん、ちよつとそれかしてよ

けいじ はい(と、自分が持っていたのをTに渡す)

しんや はい(と、自分が持っていたのをTに渡す)

だれか クラッカー

T あ、クラッカーねえ(しんやから玉をもらいながら)。オリンピックごっこのときのクラッカーでもしぶきになるかもだけど、これをねえ(手の中の白い玉をひとつとって見せながら) いっばいつないでね、そして何かでパーンてひっぱるとね、ほらこやって(と、手のひらの白い玉を上に向けて飛ばす)

事例2-2**12月3日(火) <担任の記録より>**

しんや、かずやは、しおをふきあげるしかけを考える。ひごに細く裂いたポリエチレンテープをつけて、パツと出してクラッカーみたいに吹き上げるなどいうが、いろいろしてもうまくいかない。そのうちかずやがさつさとポリエチレンテープの青をくじらに貼り始める。それをどうやって吹き上げるかと再び頭をつきあわせる。かずやがポツンと、「先生がいつかいつたみたいのうちわでとばすか?」という。(保育者はすっかり忘れていたことだったが、春の風の強い日に外でポリエチレンテープなどを使って風と遊んだことがあった。テープが風で舞い上がったり、風になびいたりするのを楽しんだ。その後、部屋に入り、部屋の中だったらどうやってポリエチレンテープが舞い上がるかを考え、その時に、うちわで扇ぐことをしたのだ。けいじとしんやは、「うん」と興味を示したので、うちわを出してみた。3人が扇ぎ、保育者はくじらの支え手になる。下から扇ぎあげるようにすると、だんだん上へ上へとテープがなびき、ついは上がる。保育者も含めて一同「やったー」と思わず喜ぶ。

事例2-3**12月6日(金) <担任の記録より>**

集まったときに、柿さんコロコロの歌をつくる。曲は、しんやが以前口ずさんだ曲にメロディをつけた。しんやが口ずさんだ曲というのは、1学期に保育者が呼びかけた返事として「大丈夫だよ」という言葉にメロディをつけて口ずさんだものである。それを他児も気に入って、時々まねてみながら口ずさんだりしていた。「歌があるといい」という発言をうけて、誰かが「『大丈夫だよ』の音楽にすれば」といったことから試してみた。歌の最初の部分はそれに、続きはみんなで考え、歌詞はみんなでその曲にあわせて考えた。「(一番)甘い柿さん、甘い柿さん、美味しい美味しい柿さん。コロコロコロ、コロコロコロどこへいく。(二番)美味しい柿さん、美味しい柿さん、どこへどこへいく。コロコロコロ、コロコロコロよかったね。」

事例2-4**12月9日(月) <ビデオより>**

T (ちえこのたいこをみて)かみなりみたい。ちえこ かみなりみたいだけど、前のおかあさんたちのげきのマーブルみたいな音だから。

T あーマーブルのね。トロール?

ちえこ うん、ドンドンドンドンとたたく…

T ほんと、そんなかんじだね。いーわりえちゃん、ぼつちゃんのところ楽器もって行ってやったら。どの楽器にするか、あなたたち相談してきめといて。

りえ (楽器のところへ行って) ちかちゃん、れおかちゃんおいでー

ちえこ さがそう。